

KoKola**lab.** 通

隔月刊ココラボ通信 No.13 2008.6.10 <http://www.kokolab.jp> 有限会社こころ木造建築研究所

豊かな森、豊かな水。
かけがえのない
水源の森を目指して。



C O N T E N T S

02 講座報告 『生きている古代の森を探索しよう』

- | | | |
|----|-------------|----------------------|
| 08 | 古建築再活用 | 石蔵の喫茶店『茶房 華蔵』 |
| 10 | 連載「日本に暮らそ」 | 第三回『雨』 |
| 11 | 「まめまめ放浪紀」 | 藤枝市『横山タンス店』 |
| 12 | Information | 「芹沢銈介の板倉の家拝見ツアー」開催 |
| | | 「2008 森と木の家講座」第三回開催 |
| | | 「木の家相談会」開催 |
| | | 「一閑張り展 PART 4」～夏椿満開～ |

こころ庵

「生きている古代の森を探索しよう」



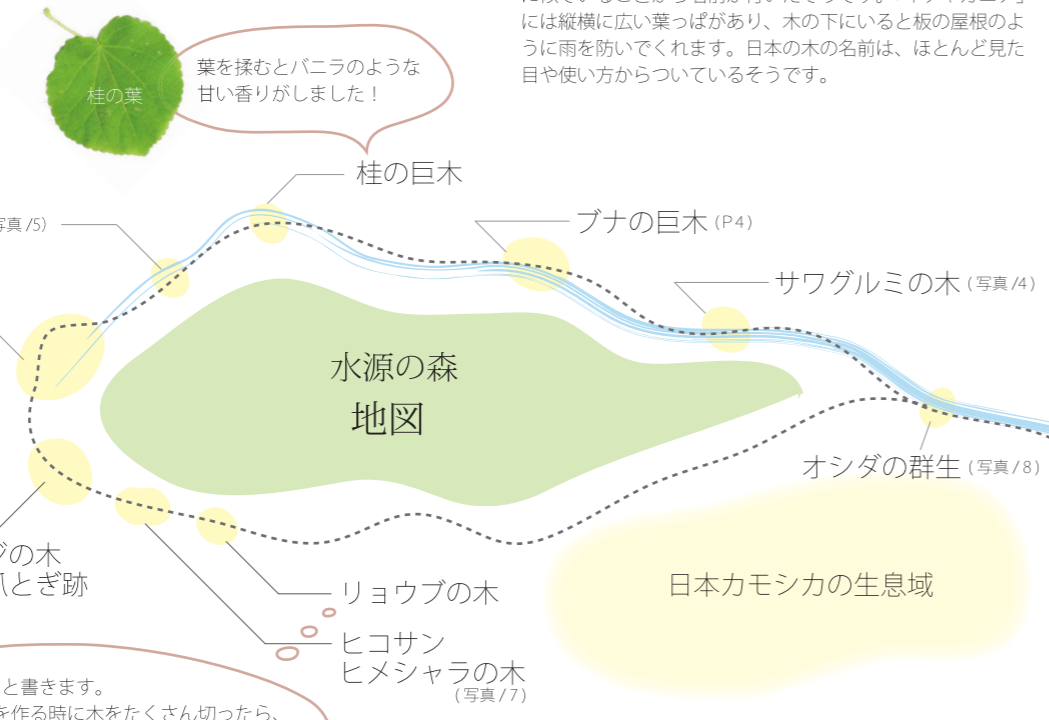
1/ 真ん中の突き出した部分が花。メスしかないとオスが生まれるというから驚きです！
 2/ 東北では山菜として食べている、ウワバミソウ。たらの芽よりも高級とされていますが、静岡は食性が豊かだったので、食べる習慣がなかったそうです。
 3/ 足場の悪いところは、丸太の橋を渡りました。コケですべるから気をつけて～！



4/ 虫コブと言われるコブがデコボコとして目立つ、サワグルミの木。
 5/ 老木の頭上には、ポッカーリと光の穴が空いていた。この光が足元の苗木に届き、若い命が育っていくのだから…。
 6/ これが安倍川の最初の一滴だ！想像以上に水量が多くてビックリ。この水、この森を守っていきいたいな…。



同じカエデの仲間でも、こんなに葉っぱの形が違うんですね。「チドリノキ」は、種子が千鳥が群れをなして飛んでいく様子に似ていることから名前が付いたそうです。「イタヤカエデ」には縦横に広い葉っぱがあり、木の下にいると板の屋根のように雨を防いでくれます。日本の木の名前は、ほとんど見た目や使い方からついているそうです。



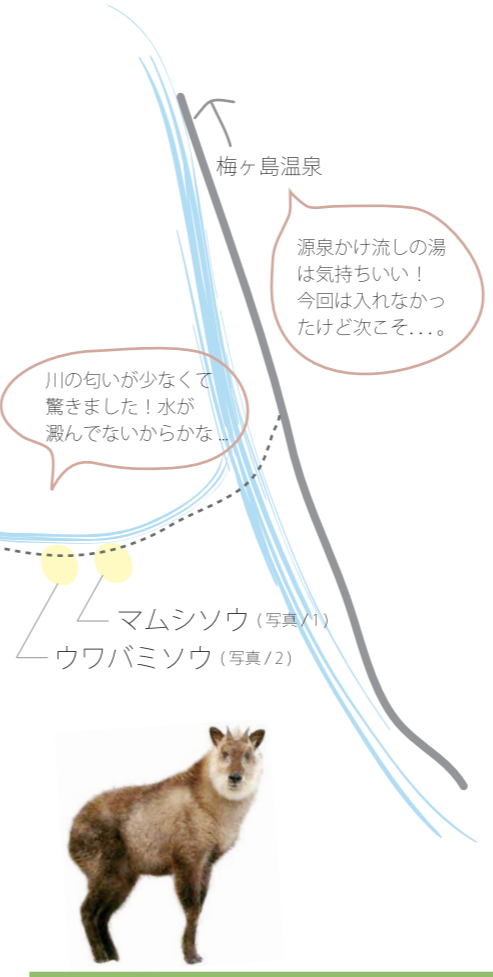
味はほんのり甘く、まろやかな感じ。森から出たばかりの水って、こんな味なんだなあ…

熊はケンカが嫌いだから、自分の体の大きさが分かるように高い位置にマーキングの爪とぎをするんだって。でも、この木にはここ3年ほど跡がないらしい…。

「令法」と書きます。昔、京を作る時に木をたくさん切ったら、土砂災害が起きたんだって。その時、根付きやすいこの木を植えなさいと法律で言ったからこの名になったそうです。

これはスズササという笹のお茶。清水さんがお昼に煎ってお茶を煎れてくれました。

お茶の作り方
 ①スズササを細かく切ってよく煎る
 ②水を入れ、よく煮る
 ③色が出て来たら … 完成！



日本カモシカ
 ニホンカモシカは本州・四国・九州の山岳地帯に住む、日本特有のウシ科の草食性動物。狩猟で数が激減したため、1955年に国の特別天然記念物に指定された。静岡県内では静岡市、本川根町、水窪町などの南アルプス地域に分布。近年、カモシカによる「食害」が問題となっているが、里山や人工林の荒廃で餌がなくなり、人里に下りてこざるを得ないのでは…と推測する声もある。

さあ、古代の森へ踏み出そう。
 静岡市の水道水や農業用水、工業用水等を供給している水源は、静岡市の中心部を流れる安倍川の源流にある。山梨県との県境にある水源の森を目指して車を走らせると、スギやヒノキの人工林の更に奥に、モコモコした広葉樹の森が見えてきた。標高1000m近い山々の森は、その殆どが天然林。普段では中々見ることが出来ない古代の森へ、いざ。



7/ ヒコサンヒメシヤラ。床柱にも使われるらしい。
 8/ 王冠のような形から、「雄シダ」と名前がついたそうです。すごく立派な王冠だな～



講師紹介 / 清水 光弘
 自然を愛し、人と自然をつなぐ活動をさまざまな展開中。
 森林インストラクター、環境カウンセラー、環境再生医。
 所属 / 「モリスト (森林療法研究会・静岡)」プロジェクト・ワイルド・エドゥケーター
 静岡県環境教育指導員 静岡市環境教育指導員
 森林保全&住宅勉強会「TREE HAND」環境担当
 梅ヶ島エコ・ツーリング・ガイド
 平成18・19年度静岡県円卓会議県民委員



自然界は、永遠と循環していく。

原 生林という言葉から、もっと荒々しい森を連想していた。人の侵入を拒むように木々が込み合い、うっそうとして暗い森……。でも清水さんの案内で踏み込んだ森は、意外にスツキリとしていて明るいものだった。貫禄ある木々が頭上高く枝を広げ、木々は余裕の間隔を持って互いの領域を守っているように見えた。私たちの通る沢沿いには苗木も多くあるが、少し離れば、大木の下には低い木々は少ない。そこへ、6月の控えめな光が横から差し込んでいる。苔むした地面のいたるところから水がチロチロと流れ出て、それらが集まり勢いよく沢を流れる。その水の音、時折聞こえる鳥の声……。想像以上に穏やかな、しかし力強い世界だった。

「この辺り一帯は、人が手をつけていない原生林です。「極相林」とも言っていて、森の境界点や最終的な到達点だと言われています。でも大木が倒れれば、そこに大きな空間が出来て光も差し込みますよね。そこに新たな生命が芽生えていくのです。それが永遠と循環していく。だから、自然界には限界はないはずなんです」。

参加者に伝わるように、清水さんがゆっくりとハツキリと……そして力強く話した。木々の一本一本には寿命があるが、森の命の営みには終わりが無いのだ……。不思議な感動が、参加者の間を伝わったように感じた。

「この辺り一帯に多い木は、ブナです。ブナの木は水を蓄えると言う人もありますが、木も人間と同じで、暑ければ汗をかきます。夏場に水分を上げて、葉っぱの裏から蒸散という形で水分を蒸発させるんです。その時放熱する気化熱で、体を冷やしています。だから森は涼しいのです。木自体が水を蓄えることはしません。では何が水を蓄えるんだと言ったら、地べたなんです。木が作る土です。ブナのような落葉樹の場合は、地べたの表面に年毎の落ち葉が降り積もり、段々になっていきます。そうやって蓋をして密閉して、地熱

と水分でこれを土に戻していく。落ち葉の中には隙間が一杯あるから、その隙間に水を溜めることが出来て、更には沢山の虫が来る。それを食べにミミズが来て、土の中の道を作る。それが、水道(みずみち)になる。そうして地下に水が浸透するんです。だから落葉樹の森というのは水源の森って言われます」。

へええ……絶え間なく湧き出る水は、そうやって地表に現れているんだ。

「でも一概に、落葉樹だけが水を蓄える訳ではありません。是非今度、スギの林を歩いて欲しいんですが、スギって言うのは、枝ごとポトーンと落ちるんですよ。そして腐りやすいです。だからスギ林の方が、ここよりもずっとフカフカしてるんですよ。」

えっ?! そうなの? スギ林っていいイメージが余りないけれど……

「郡上八幡って皆さんご存知でしょ? あそこちよつと下に、南村っていう村があるんですよ。そこは昔、全部常緑の林だったんです。昔から水が無くて困っていたんですが、常緑の林を切つてスギ林にしたら、水がこうこうと湧き出るようになったんです。スギの林には、水を蓄える機能があるんですね。ただ問題は、スギは70年を過ぎると成長が緩やかになり、水を上げたり土を作る機能が落ちます。だからスギの木を70年・60年サイクルで伐採し、その後は植林することが必要です。例えば伐つた木を住宅に使えば、都市でも炭素の固定化、それから植林することでの山での炭素の固定化、この2つが出来ます。しかもスギ林は豊かな土を作つてくれ、水源機能もあります。だからスギをあまり悪く言わないであげてください」。

人工のスギ林でも、管理の仕方によって水を蓄える機能を持つことに一同驚いた。でもそれならば何故人工林が問題視されるのだろうか。

「あそこに倒れている木を見てください。」と言って清水さんが指差す方向を見ると、大きな広葉樹が根をむき出しにして倒れていた。

「ああやって倒れると、土も一緒に持つていかれます。あの状態で雨が降ると、土は落ちて雨と一緒に流れてしまう。そうすると、山に土が残らなくなります。原生林では、最初は様々な苗木が同じように育つていっても、育つ過程で強い木が勝ち残っていくので、木々が密集することはありません。しかしスギの人工林では、植えるスギ・ヒノキは同じ能力の木を植えているので、競争しても自然淘汰されないんです。狭い空間の中で、皆で競争して成長するでしょ? そうするとね、地べたが耐えられなくなつて、まとめて倒れます。その時に、ああやって土も上げてしまい、雨が降ると大量の土が流れてしまうのです。土を作るには、1センチに100年掛かると言われています。土が無くなれば水が蓄えられなくなり、地下水が出来なくなつてしまうんです。今、戦後の大量植林から65〜55年経つて伐採時期を迎えたスギ・ヒノキの林が多いんですが、それらは手入れもされずに放置されています。それを上手に整備するか使つていつて森を健全にしてあげないと、そのうち日本中の山が崩壊します。崩壊したら、直すのにはその5倍以上の年月がかかります。子供さん方に豊かな自然を残そうと思つたら、今の大人が、なんらかの努力をするしかないん

です。環境を守る為のひとつに、僕は木を使つてくださいと言っています。でもね、木を使うにも、山で木を伐採することが出来ない現状があるんです。安い外材に押されて、国内の木材は今本当に値段が安い上に、消費が落ち込んでいます。だから山にお金が回らず、山主さんが手入れや伐採費用に当てる事が出来ないんです。ではどうすればいいのかわからないと、県の林業関係者にも今言っているのですが、使う方にメリットを出す仕組みを作る。使う方が沢山使つてくれて需要が出れば、供給量というものはある程度決まっていますから、相場が上がりますよ。そうすれば山に補助金としていちいちお金を入れなくたって、山の方は生計がたつはずなんです。僕がココロさんに賛同しているのは、木を沢山使う家造りを行っているからです。少しでも需要を増やし、山へ手が入るように活動していつてもらえればと思います」。

この日私たちが居た森は、自然の大きな営みの中にあつて豊かな土と水や生態系を支えていた。一方で、私たちの身近にある山は昼なお暗く、土は痩せて生物の姿も少ない。次の世代に伝えていくために、人が手を加えた森は責任を持つて管理していこう……。力強い原生の森に囲まれて佇むそれぞれの参加者の心に、清水さんの言葉がしみこんでいく。原生林の森が、なお美しく見えた。

(話) 森林インストラクター 清水光弘
(文) コロボ まめこ

※1「炭素の固定化」

植物は二酸化炭素を葉から吸い、太陽エネルギーの光合成によって樹幹内にセルロースやリグニンという炭素化合物として固定させる。伐採された木も、燃やさない限り、そのまま炭素を固定し続ける。異常気象や地球温暖化に関係がある、二酸化炭素を固定化してくれる植物の働きは、大きく期待されている。

※2「戦後の大量植林」

スギ・ヒノキは第二次世界大戦中に軍需品と位置づけられ、過剰に伐採された上、戦後は戦災で消失した家屋の復興の為に更に需要が高まり、絶対量が不足した。社会からの要請を受け、1960年から国ぐるみでスギ・ヒノキの植林が押し進められた。



今の大人が、努力をする
しかないんです。



安倍川の最初の一滴を目指し、大人も子供も力を合わせて険しい場所も通り抜けていきました。途中途中では清水さんのお話を交え、豊かな森を満喫しました。



昔、出雲の国に恐ろしい大蛇が現れました。この大蛇には八つの頭と八つの尾があり、目は真っ赤に燃え上がり、体は八つの谷を越えるほど大きく、背は苔に覆われスギやヒノキの大木が茂っていました。大蛇は毎年現れて村人の命を沢山奪う為、スサノオノミコトは八つの桶にお酒を入れて大蛇に飲ませ、酔い潰れた大蛇を退治しました。退治された大蛇のお腹から剣が出てきたので、大切な宝にしたそうです。

有名な「やまたのおろち」伝説ですが、これはかつて日本に起きた自然破壊と自然保護のことを示していると言われてます。どうして出雲が「やまたのおろち」の発祥の地になったか。出雲の山々は、その昔鉄の産地として栄えていました。しかし鉄を作る燃料にする為、木々は切られて山は荒れ果ててしまったのです。そこへ大雨が降り、村々は洪水に襲われたのでした。八つの頭の大蛇が降りてくる時、背中にはスギやヒノキの大木を背負っています。これが何を表しているかという、土石流です。八つの酒樽に分けた…というのは、「信玄堤」などと呼ばれるような、大きな川の氾濫を避けるために水を少しずつ分けていく…その仕組みのことを、表しているといえます。スサノオノミコトは植林の神様であり、武勇にすぐれた神様。酒樽という「水の逃げ口」を作り「治水」し、植林を村人に教えて「治山」したのでした。このように、日本には教訓としての伝説の話が残っています。最近の子供さん方にわかる話では、映画「もののけ姫」の話も、まったく同じことを言っていますね。神話の時代から、日本人は自然との調和を目指して暮らしてきたことが伺えます。民話や日本書記を読むと、色々環境のことなどの話が出ていますので、興味のある方はご覧になってください。

（話／森林インストラクター 清水光弘）



「やまたのおろち」日本の伝説と自然保護



上／かなり上流に行っても水の量は豊かだった。さすがは「水源の森」…。左／2006年度講座での植林風景。伐りたての植える。当たり前のことを守っていきなさい。

講座を振り返って

ここ最近、エコ活動に意識を向ける人が増えています。TVなどで地球温暖化による影響や自然破壊に関するニュースを聞かない日はないほど、これらは私たちの身近な問題になっているからでしょう。しかし、あまりにも問題が大きすぎ、そして多岐にわたっていて、何か行動したいのにもどこから始めたらいいか迷ってしまうことはないでしょうか。

「水源の森を体験し、水について考えることで森の大切さを知る」…これが今回の講座の目的でした。私たちが訪れた水源の森は、ブナのような落葉樹が多い原生林です。その落ち葉が降り積もり、地球の地熱や水分・沢山の生き物によって分解されて「土」に帰り、そして「土」が水を蓄えていく…。地球や生物が「土」を作り上げる時間は、1センチの厚みに対して100年かかる…と、講座の中で知りました。一度山から土が失われたら、自然のシステムが元に戻るのに、その5倍以上の年月が必要になる。今、山がその危機に面していることも学びました。そして私たちは、フカフカとして厚い森の地面の感触を体で感じ、人が手を加えてはいけない場所があるのだと、実感することが出来ました。

紙面や映像から学ぶことも大切ですが、行動に迷った時などは体験することも大切だと思います。講座に参加された方は、家具屋さんや教師、漁師、主婦等の様々な職種の方々でした。きっと、水源の森を体験し、それぞれの道で新たに一歩を踏み出していくのだと思います。私たち一人ひとりの力は確かに小さいものですが、皆が意識を持っていくことで、エコ活動の原動力に変わっていくでしょう。

かつての日本人は森林に依存しながらもその循環を妨げない方法を知り、暮らしていました。その時代のままに暮らすことは難しいかもしれませんが、意識を高く持ち、先人からの知恵を今に活かす方法を探っていきなさいと思います。

（文／コロポ まめこ）

参加者の声

空気がとてもおいしく、やはり木はいいなと思いました。 (40代/男性)

静岡市の街外れにこんな見事な原生林が現存しているとは。本格的なエコツアーを堪能させて頂きました。 (60代/男性)

日本の森林を長期的視野で守っていくことの重要性を教えてくださいました。 (60代/男性)

こういう場所が身近にあるといいなと思った。 (30代/男性)

こんなにも自然のまま残されている森が身近にあることに驚いたとともに、嬉しく思いました。とても気持ちの良い森でした。どこを見ても気持ちの良いものしか目に入ってこなくて楽しかったです。 (30代/男性)

森を利用し、活かしていく大切さを学んだ。また、それが難しいことも感じた。まず気づき、知る事が次へと繋がっていくと思った。 (30代/男性)

こんな身近な所に、手つかずの素晴らしい原生林があることに驚きました。沢沿いを歩く心地よさを味わいました。でも濡れた丸太橋の上を歩くのは怖かったです！安倍川の源流の一つを訪ねる事ができ、嬉しかったです。 (60代/女性)

森は私たちの生命の源です。 (60代/女性)

清水さんのお話がおもしろかったです。もっといろいろ聞いて見たいと思いました。 (30代/男性)

針葉樹を使う事が大事だと痛感しました。 (30代/男性)

秋にまた来たいと思います。 (30代/男性)

参考図書

- 『日本の森大百科』姉崎一馬
- 『森のめぐみ』姉崎一馬
- 『しずおか水を育む森50選』社団法人静岡県山林協会
- 『森の樹木』前田慎三・谷本丈夫
- 『葉で見わける樹木』林将之
- 『樹皮ハンドブック』林将之
- 『木の家に住むことを勉強する本』「木の家プロジェクト」

- 1/ 伊豆石を使った、築 70 年の石蔵。蔵上部の小窓についている庇は、残っていた庇を参考に復元しました。
- 2/ 石蔵の構造を活かして設計した店内。手前のテーブル3台は、鬼胡桃 (オニクルミ) で製作しました。
- 3/ 大きな庇が、蔵の雰囲気と合っています。暖簾が涼しそう…。
- 4/ 元々の蔵の出入り口にあった4枚戸 (木格子戸・鉄格子戸・漆喰戸・鉄扉) をそのまま活かしました。
- 5/ 鉄扉には、こんな飾りが…。建てた方の遊び心が感じられます。
- 6/ 「華蔵」の名のごとく、様々な花に囲まれています。洗い出し仕上げの花壇とも似合います。
- 7/ 今回のメインであるカウンターには、5mのウォールナットを使用しました。
- 8/ まずは「華蔵ブレンド」はいかがでしょう。ケーキと共に、お楽しみ下さい。

『華蔵』の由来

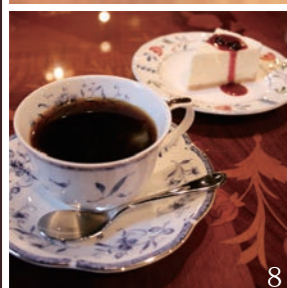
華蔵の“蔵”は石蔵の蔵ですが、“華”とは、生前お花がとても好きだったお母様にちなんで付けられた名前だと聞きました。現在駐車場になっている場所には、当時、鉢に植えられた草花で一杯だったとか。そして、お母様はその一つ一つを丁寧に育て、とても大切にされていたと聞きました。華蔵の窓から見る景色の中に、お母様の育てた植木が季節の花を咲かせています。

古 建 築
再 活 用



石蔵の喫茶店 『茶房 華蔵』

ジャズ&カフェ。雰囲気を見るに、つついスイング。そんな大人の「くつろぎ空間」。



ブレンド珈琲 400円～
ストレート珈琲 450円～
※人気のケーキセットは
お飲み物+250円です。

〒426-0025 藤枝市藤枝 5-6-48
Tel & Fax : 054-641-0386
営業時間 : 10:00 ~ 19:00
定休日 : 月曜日、隔日曜日



活用することで、その建物に残された技術や素材の記憶が、次の世代に繋がっていく。

「この石蔵をなぜ喫茶店にしようと考えられたのですか?」と、Yさんに尋ねた事があります。そこには、何とかこの石蔵を活かしたいという、Yさんとご家族の強い思いが込められていました。お菓子の蔵として使われていた石蔵も、時代と共にその場を失って行き、次第に色々な物が入られ、物置になってしまったといえます。このままではもったいない、何とか活用していく事で、もう一度この蔵を桧舞台に…と思つたのでしよう。友人の勧めもあり、喫茶店として蘇らせる決意をしたと聞きました。

建築物というものは、そこに暮らす人にとって日常の安らぎの場、また地域の人にとってはシンボルでもあります。しかし、使われない為に空気が通らず湿度が溜まれば、木材で造られた部分の傷みは加速していくでしょう。使っていく事は、建物の寿命を延ばす事にもなります。そして生活の中で活用することで沢山の人の目にもらい、その建物に残された技術や素材の記憶が、次の世代に繋がっていくのだと思います。民家再生や古材利用といった現代の動きの中で、建築物を活かして使う「活用」と言う方法も、これからのあり方ではないかと感じました。

Yさんと打合わせを重ね、2月上旬から工事に入る事になりました。今回の工事での主役は石屋さんです。本来は石で造る事が仕事なのですが、窓を開ける為に石を開く事が、今回の大きな仕事でした。伊豆石は比較的柔らかい石で、簡単に割れてしまします。目地の位置と窓の配置を考えながら、慎重に工事をしていきました。石蔵とは言いますが、すべてが石の積石造ではなく、竹小舞の土壁の外周に石が積まれたものです。工事の最中に解つたのですが、カスガイを90度ひねったお手製の金物で、細かく石と柱が固定してあり、揺れて石が崩れ落ちないように工夫されていました。蔵の柱や梁も太く立派なもので、柱は松の5.5寸角(157mm)が3尺ピッチで建てられ、1尺2寸(305mm)程の松梁が同じく3尺ピッチで架けられています。地震などで建物が揺れた時、石の重みはそのまま建物に寄りかかって来る為、これだけの構造が必要なのです。現代の住宅に比べるととても頑固な造りで、それほど古くはない建物ですが、構造の中に伝統と現代には無い裕福さを感じました。

石の開口は無事完了し、補強枠の設置・窓・窓枠の工事も完成しました。全体の工事は約2ヶ月で完成し、4月の下旬に無事オープンする事が出来ました。

「この石蔵をなぜ喫茶店にしようと考えられたのですか?」と、Yさんに尋ねた事があります。そこには、何とかこの石蔵を活かしたいという、Yさんとご家族の強い思いが込められていました。お菓子の蔵として使われていた石蔵も、時代と共にその場を失って行き、次第に色々な物が入られ、物置になってしまったといえます。このままではもったいない、何とか活用していく事で、もう一度この蔵を桧舞台に…と思つたのでしよう。友人の勧めもあり、喫茶店として蘇らせる決意をしたと聞きました。

建築物というものは、そこに暮らす人にとって日常の安らぎの場、また地域の人にとってはシンボルでもあります。しかし、使われない為に空気が通らず湿度が溜まれば、木材で造られた部分の傷みは加速していくでしょう。使っていく事は、建物の寿命を延ばす事にもなります。そして生活の中で活用することで沢山の人の目にもらい、その建物に残された技術や素材の記憶が、次の世代に繋がっていくのだと思います。民家再生や古材利用といった現代の動きの中で、建築物を活かして使う「活用」と言う方法も、これからのあり方ではないかと感じました。

今回石蔵の改修工事を行わせて頂き、建築に携わる者として貴重な体験をさせて頂きました。私の中に、古いものを活用していくという思いが、今まで以上に膨らんできたように思います。(文)コロポ 山崎健治

昨年の12月、今までは少し違った建築の相談がありました。石蔵を改装して喫茶店を作りたいという内容で、早くその石蔵を見てみたいと思つた私は、すぐに現場へと向かいました。そこには伊豆石で作られた石蔵があり、詳しく調査してみると、内外とも状態はとも良く、特に石積みは歪みが少なく、石屋さんその綺麗な感じする程でした。

もうすぐ梅雨の季節ですね。この時期は特に雨降りが続きますが、日本は年間を通して雨の多い「雨の国」なのです。

日本に暮らすに 「雨ことば」

しり～ず第三回

日本の雨の特徴は
① 四季を通じて降り、降水量が多い
② 梅雨や台風など雨季がある
③ 降水密度が高く、強い雨が降る
日本の平均年間降水量は1800ミリで、地球表面全体の平均が1000ミリですから約2倍にもなります。

雨の国に暮らす皆さんは、身近な雨にもいろいろな雨があることを感じているでしょうか？雨の様子は、ミリや弱い雨・強い雨など数値や強さで表される事が多いですが、量や強さが同じでも、わか雨のような時間で見た雨、草木の青葉に降りかかる雨のような周囲の様子と重ねた雨など、一言で雨と言ってもいろいろな雨があります。そんな数値や強さだけでは表せない雨を豊かに表現しているのが、日本で昔から使われてきた「雨ことば」です。

今ではあまり聞き慣れない美しい雨ことばには、豊かな表現と響きがあり、日本人が微妙な変化も捕らえる繊細さを持ち、如何にして感覚で生きているかを感じさせます。季節の変化の大きい日本には、特に天気や気象を表すことばが多くあり、ことばや自然への豊かな意識が、日々の暮らしの中にあつたことが伺えます。

そんな言葉で雨の変化を楽しむ、表現する事で、こころや感性、暮らしそのものも豊かになっていくような気がします。これで梅雨の時期も穏やかに過せるのでは？・・・
では、早速表現してみましょ！数多くの雨のことばの中でも、雨の様子・降り方のことばを中心にとりあげました。

雨の降り方

群雨 むらさめ
* 激しくなったり弱くなったりして降る雨

飛雨 ひゅう
* 雨が風に飛ばされながら降る雨

深雨 しんう
* 激しく降る雨・大雨

黒雨 こくう
* 空が暗くなるような大雨

雨のようす

糸雨 いとさめ・しゅう
* わずかな雨

細雨 ささあめ
* わずかな雨

群雨 むらさめ

飛雨 ひゅう

深雨 しんう

黒雨 こくう

雨のようす

私雨 しゅう・わたくしあめ
* 一部分の土地に降る雨

一雨 いちう
* ひとしきり降る雨

一雨 いちう
* ひとむらさめ

狐雨 きつねあめ
* ひよりあめ

久雨 きゅうう
* 幾日も降り続く雨

翠雨 すいう
* 草木の青葉に降りかかる雨

甘雨 かんう
* 草木を潤し、生長を助ける雨

時雨 じゅう
* ほどよい時に降る雨

白雨 しらあめ・はくう
* にわか雨

狐雨 きつねあめ

久雨 きゅうう

翠雨 すいう

甘雨 かんう

雨のおと

しとしとあめ
* しめやかに降る雨

ほろほろあめ
* ほろほろとこぼれ落ちるように降る雨

しよぼしよぼあめ
* じつとりとモノを濡らして降る雨

したしたあめ
* 絶え間なく降る雨

どんな雨が見えたでしょう？昔の人の視点やことばのつづり方はとても面白く、雨の様子だけでなく、周りやその人の様子まで感じられるような気がしません。数値や強さで雨を表す事は容易いですが、ことばで表現する事で見出せる豊かさもあるという事を忘れてはならないと思えました。皆さんも自分の雨ことばをつづってみては？
(文)コロポ 鈴木久美子

参考資料
『雨のことば辞典』株式会社講談社
『美しい日本語の辞典』小学館
『雨の辞典』株式会社北斗出版

「藤枝第一助産院」さんからのご紹介で今回取材させて頂いたのは、藤枝市商店街の一角に店を構える桐箆笥屋『横山タンス店』さん。桐タンスって、すてぃんですよ!

仕上げ磨き工程

- ① 「うづくり」と呼ばれる、干したカルカヤの根を短筒状にまとめて麻糸で固く縛った道具で表面を擦り、木目を出していく。
- ② ヤシャンポーと砥の粉を混ぜた塗料を、均一に素早く塗る。
※ ①② を3回繰り返す。
- ③ イボタノキに寄生するイボタロウムシの幼虫が分泌した蠟を溶かして固めた「いぼたロウ」で磨いていく。

写真の中で作業されている方は、格太郎さんです。



編集長「まめこ」の『まめまめ放浪記』



桐 横山タンス店

〒421-0018
静岡県藤枝市本町 4 丁目 5-29
Tel /054-641-3580
E-Mail / yokokiri@aioros.ocn.ne.jp
営業時間 / 8:30 ~ 19:00
休日 / 年中無休 (但し事情により終日あり)
駐車場 / 有り

ギャラリー 桐の蔵

〒426-0067
静岡県藤枝市前島 2 丁目 28-11
Tel /054-637-3808
営業時間 / 10:00 ~ 17:00
休廊 / 月曜日 (祝日の場合は営業)
駐車場 / 有り (2台)

「桐タンスは火事に強いって、聞いたことがありますが？桐材自体も火に強いのですが、水をかけておけば膨張し、内部に火が入りません。外側は真っ黒になるけど、内側や衣服は何ともないんですよ。」
「桐タンスは火事に強いって、聞いたことがありますが？桐材自体も火に強いのですが、水をかけておけば膨張し、内部に火が入りません。外側は真っ黒になるけど、内側や衣服は何ともないんですよ。」
「桐タンスは火事に強いって、聞いたことがありますが？桐材自体も火に強いのですが、水をかけておけば膨張し、内部に火が入りません。外側は真っ黒になるけど、内側や衣服は何ともないんですよ。」

「しっかりとした仕事をしたいと思っただけで、買った方が大事にしたい。近くに寄った時には、タンスの具合を聞きに伺ったりします。そうやって、こちらが頑張っていることを伝えていくことが、信頼になっていくように思っています。」
何十年も前に横山タンス店さんで桐タンスを購入された方が、子供さんに譲る為に、修理・再生をお願いしてることがあるという。作り手から作り手へ、そして使い手へ。静かに脈々と受け継がれていく技と心。これが「伝統」ってことなのかな・・・
桐タンスの素晴らしさを知るほど、中に入れる物にも心を配りたいと思うようになった。高級な物でなくとも、良い物を手にして大切に扱いたいと思う。そして、いつか桐タンスに収納し、子供に伝えていきたいな！大切なことを守る心まで、伝わっていくような気がした。

「桐タンスは、この辺りでヤシャンポーと呼んでいる木の葉を煎じて作った煮汁と、京都仁科地方で取れる砥の粉（この）を混ぜて作った塗料で磨いていくんだけどな。毎度作る塗料の具合や、塗る季節・天気・時間によっても仕上がりが具合が変わっていくから、一番気を使っていると、普通段は人に見せないんだ。」
私が取材に伺ったとき、桐タンスはほとんど形作られて、仕上げの大事な局面にきていた。ピンと張り詰めた空気の中で、塗りの作業が手際よく進んでいく。塗料が乾くと、いぼたロウと呼ばれるものをタンスの表面に丹念に滑らせる。塗料で黄白色にくすんだ桐材が、つやつやと輝きだした。すてぃん・・・。
「綺麗だろ？これが最上の桐タンスだよ。」
誇らしげに、横山タンス店・横山格太郎さんが笑った。

えっ 知らなかった！今でも火事は怖いけど、大火になり易かった昔は尚更、桐タンスが重宝がられたんだろうなあ・・・
「昔は、タンスと言えば桐タンスのことを言いました。実は、藤枝は日本三大桐タンス産地だったんですよ。三代将軍・徳川家光公がお浅間さん（浅間神社）を造営する時に全国から呼び寄せた職人たちが、一部藤枝に移り住んで基盤を作ったそうです。職人は減ってしまったけれど、藤枝桐タンスは静岡県の郷土工芸品に指定されています。今でも、昔と変わらぬ製法を守っているんですよ。」
合板の家具が広まった時代でも、父の格太郎さんは桐の無垢材を使い、木を組み、昔からの仕上げを変えなかったという。「不器用だったんですよ」と笑う浩史さんの顔は、どこか誇らしげに見えた。

KoKolab. 通

隔月刊 ココロボ通信 No.13
2008年6月10日発行

発行人 有限会社こころ木造建築研究所
代表 山崎健治
〒426-0084 静岡県藤枝市寺島 529-1
TEL 054-646-3678
FAX 054-646-3695
http://www.kokolab.jp
office@kokolab.jp

[編集 / 有限会社こころ木造建築研究所 編集部]
編集長...古屋絵理(通称まめこ)
編集スタッフ...鈴木久美子
記事執筆...
山崎健治(有限会社こころ木造建築研究所 代表)
夏梅真澄(有限会社こころ木造建築研究所 建築部)
印刷所...松本印刷株式会社
※本誌記事の無断転用やコピーを禁じます。

[購読を希望されます方へ]
別紙葉書にご記入の上投函して頂き、
下記お振込み先へご入金下さい。
年間購読料...1,200円 / 一冊定価...200円
振込先...静岡銀行 掛川支店 普通 0790105

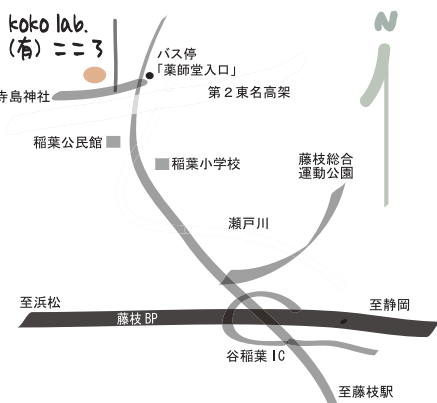
会社概要

当社は、地域木材と職人の伝統技術で造る木の家造りを行っている設計事務所です。隔月発行の『ココラボ通信』、また『森と木の家講座』やイベントなどを通し、住宅や暮らしを取り巻く様々な情報を発信しております。

編集後記

原生林を始めて訪れ、森の力強さに感激しました。人が存在する以前から、変わりなく命の営みを続けている原生林。ふかふかの苔蒸した森に横たわれば、そのまま森に吸収されて自分も森になってしまうような...奇妙な懐かしさを感じました。今度はもっと長い時間を森の中で過ごしてみたいと思います。参加者の皆様、お疲れ様でした!

今回の放浪記で桐タンス屋さん取材させていただきましたが、その時に地域の産業である「雛人形」や「花火」にも、桐の粉が使われていると教えていただきました。桐が育てた文化なんだ...と思うと、改めて木と人の深い関わりを感じます。周囲を探してみれば、もっとそんな繋がりが見つかるかもしれない。見つかったら、ご報告します!
(編集長 まめこ)



(文)ココラボ 夏梅真澄

『芹沢銈介の板倉の自邸 拝見ツアー』

染色界の重鎮・芹沢銈介は、宮城県にあった板倉の素朴さにひかれ、東京に移築・改修し、自宅として活用していました。その家は現在、静岡市立芹沢銈介美術館に移築されています。その家と美術館を見学後、築3年の現代の「板倉の家」を見学させていただきます。板倉の魅力を満喫しましょう!

日時: 6月29日(日) 10:00~15:00
場所: 静岡市「芹沢銈介美術館」「牛乳屋さんの木のおうち」
※美術館入館料(大人410円、学生(大学生・高校生)250円)
※申込方法: 当社まで、お電話かメールでお申込下さい。
※獲れたての新鮮な生しらすや用宗井などが500円で食べられる、「用宗漁協直営どんぶり屋」でランチを食べましょう!
※見学の申込みをされた方に、追って詳細をお知らせ致します。

『2008 森と木の家講座』開催します!!

第3回『差し金 道具に伝わる知恵』

大工の技の真髄と言われる「差し金」の技術を、現役の棟梁から「道具箱作り体験」を通して学び、日常生活に活かしてみませんか。

日時: 7月13日(日) 13:00~16:00
場所: 藤枝市 ココロボ事務所内 大工刻み小屋
講師: 福田富士雄 棟梁
参加費: 単発受講費...1,500円、他講座3回受講費...4,500円
予約方法: 当社までお電話かメール、もしくは専用の申込用紙でお申込下さい。単発の方は当日受講費をお持ちください。3回受講希望の方は、下記の振込先までお振込み下さい。振込先/静岡銀行 掛川支店 普通 0790105
確認後、詳細をお伝え致します。
※詳細はココラボホームページをご覧ください。http://www.kokolab.jp

「木の家」相談会 開催!

日時: 7月12(土)・13(日) 10:00~17:00
場所: (有)こころ木造建築研究所 事務所
※相談者が多数になることもあるため、お電話かメールにてご予約下さい。
※次々回「木の家」相談会は8月2・3日(土日)に開催致します。

こみんか ぎゃらりー こころ庵 展示予定のお知らせ

「木のカタリリーと玩具を作ろう」H・W・Fによるワークショップ開催

平成20年7月26日(土)~27日(日) 午前の部/10:30~、午後の部/13:30~
広葉樹の木片を使って、バターナイフやスプーンなどのカタリリーや、玩具を作ってみませんか? 瀬戸川エコマネーも使用できます。楽しい一時を過ごしましょう。
子供向け...「木の玩具作り」 参加費/300円(1ドングリでも可能) 定員/10名
大人向け...「木製カタリリー作り」 参加費/3,000円(カタリリー2本とクラフトナイフ) 定員/10名
※予約先/こころ庵 054-646-5786

「苔玉と古民具の世界」~2008 銀蔵展~

平成20年8月25日(月)~31日(日) 平日・土日/10時~17時
手ぬぐい・風呂敷・花台...素材で温かい古民具と、瑞々しい苔玉や野草盆栽との取り合わせをお楽しみ下さい。もちろん、販売もいたしますよ!

こころ庵連絡先 ■054-646-5786
sasayuri@mbm.nifty.com ※作品を展示して下さる方、ご連絡ください。

梅の小話

「風道のある家」が竣工し、五月中旬には引越しも一段落されたようでした。ある日の夕方、たまたま「風道のある家」の前を通り過ぎると、デッキに座る人影が！驚いて見ると、施主のTさんでした。「毎晩デッキでくつろいでいる」と聞き、楽しそうに生活されている様子に、ご自宅を堪能されているようで大変嬉しく思いました。

さて、ベランダやデッキのようなものを、日本家屋では「濡れ縁」と言いますよね。このような空間は、日本の風土にあっていると思います。濡れ縁の上には軒があって雨や陽射しを遮る為、ひなたぼっこや食材の天日干しなど、実に多用途に使用されてきました。また生垣や塀越しであっても、そこにいけば人の気配を感じて適度な距離を保つことが出来る為、近所の方が突然訪れても、家の中へ上がらずに縁で談笑...となるのでしょね。

ところで、縁と言っても板の張り方によっても呼び名が違うのだそうです。つい最近教えてもらったのですが、敷居に直角に木口が見えるように板を張った縁を「切り目縁」、建物の壁方向に沿って板を張った縁を「樽(くれ)縁」と言うそうです。また、寝殿造りでは「簀子縁」と呼ばれる簀子(すのこ)状の濡れ縁が、回廊のように配されています。京都御所の紫宸殿、奈良の春日大社も簀子縁とか。皆さんの身の周りには、どんな「縁」があるのでしょうか?